

「2012 ITEA信越安全大会」開催

—0災の継続で 成し遂げよう大量工事
がんばろう信越！—

情報通信エンジニアリング協会 信越支部 技術部長 宮島 康

情報通信エンジニアリング協会 信越支部主催、NTT東日本(株)・NTTグループ各社様の後援により「2012 ITEA信越安全大会」を去る7月20日に新潟市および8月3日に更埴市(長野)において開催しました(写真1)。

本大会は、情報通信エンジニアリング協会が従来行っていた「安全品質フォーラム」と各社で実施していた「安全大会」を統合した大会で、昨年度に引き続き、今回で2回目の開催となりました。

NTTグループが計画するフレッツ光新規エリア拡大等の大量工事に対し、安全を第一優先に完遂させることを使命に、『0災の継続で 成し遂げよう大量工事 がんばろう信越!』を今回の大会メインテーマとし、「人に任すな わが身の安全 一人ひとりが責任者」を安全テーマ

として開催しました。NTT東日本・NTTグループ各社の幹部を来賓としてお迎えし、会員各社および協力会社の社員の皆さんが参加しやすい新潟と長野の2会場で開催したことから、昨年を上回る約1,100名の方々に参加をいただきました。

新潟会場では、(株)NTT東日本ー新潟・日本コムシス(株)・(株)協和エクシオ・(株)TOSYS(旧東日本システム建設(株))・(株)トーシス新潟の5チーム、長野会場では、(株)NTT東日本ー長野・(株)ミライト(旧大明(株))・NDS(株)(旧日本電話施設(株))・(株)TOSYS・(株)アルスターの5チームによる改善事例発表とともに、両会場共通して信越地方における安全品質の現状、人身事故防止デモ(危険体感)、安全ビデオを視聴し、最後に安全決意表明と参加者全員による安全唱和で幕を閉じました。

三浦支部長挨拶

本大会は、三浦信越支部長の次のような挨拶から始まりました(写真2)。

「業界において重大事故が多発しています。再発防止に向け、ITEAの構成会社の社長はこれまでのように旗を振るだけではなく、自らも汗をかかなければならないということで、何度も現場に出掛けるなど精力的な活動を行いましたが、残念ながら事故は起こってしまいました。事故撲滅に向けた特効薬は無く、地道に、しつこく活動を続けるしかありませんが“マナー化”になっては効果がありません。事故が起きた、基本動作を守っていなかった、『お前、何やってんだ』と責めるのは簡単ですが、誰も事故を起こそうと思って起こしているわけではありま



写真1 会場内



写真2 三浦支部長挨拶

せん。基本動作を守らなかった人は当然、大きく反省をしてもらわなければなりません。一緒に仕事をしていた仲間、班長、協力会社の社長、事故に対してはみんなが責任を感じなければなりません。

“マンネリ化”を打開するため、新しい施策を展開しています。安全パトロールではCHECK型から対話型に軸足を移し、現場作業者の意見・要望・不満等を聞きだし現場安全会議で整理を図る、協力会社社長との会議では、『知っているのになぜ基本動作を守れないのか』をテーマに元請会社、協力会社がそれぞれ自分達の責任について率直に話し合うというグループディスカッション形式を取り入れ、双方向による意見交換をする場を作りました。安全パトロールで訴えられた現場作業者の思い、グループディスカッションでの双方の意見、これらは発注者である我々は重く受け止めなければならないと思っています。『みんなが安全を作る責任者』であるからです。

みんなで安全を作り込んでいきましょう。』

来賓挨拶

来賓を代表してNTT東日本 ネットワーク事業推進本部 エンジニアリング部門長 田辺博様からご挨拶をいただきました（写真3）。まず、東日本大震災の復旧支援に対する御礼、通建会社の力添えなしにはサー



写真3 来賓挨拶 田辺部門長様

ビス復旧は成し遂げられなかったことおよび過酷な環境の中、集中力と現地に見合った作業環境の確保により重大な人身事故も極めて少なく復旧したことに対し、感謝の意を述べられました。

一方、安全管理を徹底している中、連続して発生した転落死亡事故についての状況説明、原因として当事者意識の欠如および周りの作業者が注意できなかった環境であったことと、その環境を打開すべく現在NTTが取り組んでいる安全に対する小集団活動について紹介がありました。

最後に、本安全大会で一つでも多くものをもち帰り、我々の仲間から不幸な人を出さないという気持ちで取り組んでほしいこと、およびNTTの競争力は現場力であり、その強みを皆さん自身で高め、磨き、これからもWIN-WINの関係で日本の通信を支えていただきたいと強いメッセージがありました。

特別講演

新潟会場では、NTT東日本 新潟支店長 佐野晃之様から「NTT東日本の事業動向と安全・品質向上に向けた取り組み」について講演をいただきました（写真4）。

まず、NTT東日本の事業動向として、厳しい通信事業の環境の中、フレッツ光販売の強化、新たなサービスの導入によるお客様の囲い込み



写真4 特別講演 佐野支店長様

等、増収・増益に向けた取り組みについて紹介がありました。

次にNTT新潟支店の事業動向として、設備投資計画の状況、光サービスのビル展開・光エリアカバー状況・光配線の充足計画について説明をいただくとともに、光サービスの普及策の一環として地域の店舗様などと協力し、フレッツ光メンバーズクラブの会員様向けに提供している「光Niigata Happyタウン」の紹介がありました。

安全・品質向上の取り組みは、人身事故防止、誤接続等の設備事故防止、情報漏洩の防止に向けて基本動作を遵守することと、事故は“0”がゴールでなく“0”を継続していくことが重要であると再認識のお願いがありました。

最後にNTTの新技術の紹介、業界が一体となったVE&VA提案の仕組み、採用事例の紹介があり、作業性の改善、安全・品質の向上に繋がるさらなる提案のお願いと、事業全体の成果は、それを支える安全・安心・品質の担保であり、業界全体の発展を皆で作りに上げていきたいとメッセージがありました。

長野会場は「NTT東日本長野支店における安全・品質向上に向けた取り組み」と題して、NTT東日本長野支店長 俣田達男様（代理設備部長 岩井修様）から講演をいただきました（写真5）。

まず、NTT東日本の事業計画の柱は増収増益を目指すこと、それに



写真5 特別講演 岩井設備部長様

向け営業利益の確保およびフレッツ光の施設数の確保に向けた取組み強化について紹介がありました。

次に、NTT長野支店では、フレッツ光エリアのビル拡大として残されたルーラルエリアへの展開を2年間で行う予定であること、および光配線エリアを集合住宅まで大きな目標を掲げて拡大する計画であるとの説明がありました。

NTT東日本の設備については通信簿的なもので3つの部門が評価され、長野は其中で通建業界に支援いただいている宅内故障修理部門で上位であるが、その他開通部門と設備運営部門の2部門は平均以下であり、良いところは維持しつつ皆さんと協力して平均点以上を目指したいとお願いがありました。

また、安全・品質向上に向けた取組みについて、分析では事故の7割弱が基本動作の不徹底であり、どのような状況でも基本動作を遵守すること、職場の社員間で気持ちが通い合っていないと事故が起きる可能性があり、コミュニケーションが重要であると説明されました。NTTとしては、工事線表の平準化、適切な工事配分により安全に作業ができる環境作りを目指すとともに、皆さんと一緒に事故を減らし、より良い設備を作り、お客様に満足していただける長野の設備にしていきたいとメッセージがありました。

信越における安全品質の現状

情報通信エンジニアリング協会 信越支部 安全部会 寺澤部会長から、「信越における安全品質の現状」をテーマに東日本および信越地方における人身・設備事故等発生状況について、具体的かつ詳細な説明がありました（写真6）。事故撲滅に向

けた今後の取組み方針は、事故を起こさせない職場の風土作り、安全に対する社員の意識改革、安全の装備化の3点を推進するとともに、「危険を危険と感じる感性を育てることが最も重要」であることを強調され、「もしかして～になるかも」と常に危険リスクを意識した作業をすることの重要性について注意喚起されました。最後に、現場にはいろいろな危険な「かも」が潜んでいることの再認識と、信越地方では絶対事故を発生させないとの意識合わせで締めくくられました。

改善事例発表

新潟会場では(株)NTT東日本ー新潟・日本コムシス(株)・(株)協和エクシオ・(株)トース新新潟・(株)TOSYSの5チーム、長野会場では(株)NTT東日本ー長野・(株)ミライト・NDS(株)・(株)アルスター・(株)TOSYSの5チームにより、日頃、業務の中で取り組んでいる改善活動の中から次のテーマについて発表と熱心な質疑が行われました（写真7）。

「転落事故撲滅に向けた取組」(株)NTT東日本ー新潟（写真8）

「問合せに関する引き継ぎ事項の確認時間の半減」日本コムシス(株)（写真9）

「引込線道路横断用架設工具とその作業棒」(株)協和エクシオ（写真10）

「修理品質の向上、故障修理一元化&節電の取組」(株)トース新新潟（写真11）

「OPTOS支援機能（設計AP）を活用した一般工事設計への取組」(株)TOSYS（写真12）

「光配線における効率的な故障修理（中間接続補助工具の改善）」(株)NTT東日本ー長野（写真13）

「写真検査業務の効率化」(株)ミラ



写真6 寺澤安全部会長



写真7 熱心な質疑応答の様相



写真8 (株)NTT東日本ー新潟



写真9 日本コムシス(株)



写真10 (株)協和エクシオ



写真11 (株)トーシス新潟

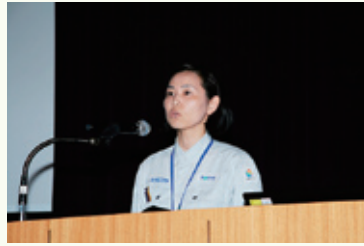


写真12 (株)TOSYS



写真13 (株)NTT東日本一長野



写真14 (株)ミライト



写真15 NDS(株)



写真16 (株)アルスター



写真17 (株)TOSYS



写真18 脚立不安定体感



写真19 梯子縦滑り体感

イト (写真14)

「e-OADM余剰BLANKヨウヒン
「管理ツール」作成による設計業務
の効率化」NDS(株) (写真15)

「電柱掘削工具の改善」(株)アルス
ター (写真16)

「フレッツ光回線切替工事にお
ける回線試験の効率化」(株)TOSYS
(写真17)

人身事故防止 (危険体感) デモ

人身事故防止に向けた社員の意識
向上を図るため、脚立不安定体感、
梯子縦滑り体感、飛来落下危険体感
(MH作業におけるハンマー落下の
危険性)のデモに加え、所内系の静



写真20 飛来落下危険体感



写真21 静電気計測体感

電気による設備事故防止を目的とし
た静電気計測体感を実演しました
(写真18~21)。内容は昨年度と全
て違うメニューで、ITEA東日本研
修センターの指導、セット借用等によ
り、スタッフ一同緊張感の中での実

演と飛入り社員による体感もあり、
事故の恐ろしさを目のあたりにする
とともに、改めて基本動作の徹底を
認識することができました。

安全ビデオ視聴、決意表明・安全唱和

「なぜ落ちたのお父さん～自分の安全は自分で作る」の安全ビデオを視聴し、協力会社代表によるゼロ災の決意表明、参加者全員による安全唱和を行いました（写真22・23）。特に協力会社代表による決意表明は、本安全大会の趣旨を十分理解し自ら実践するとともに、職場への展開が責務であること、全国で発生している事故を自分の事に置き換え、その再発防止を確実に実現し、お客様やNTT様の信頼を確保するという力強い宣言で締めくくり、大会参加者のさらなる安全意識の醸成が図られました。

安全・VE展示

(株)NTT東日本ー新潟、(株)NTT東日本ー長野、NTTREC(株)、NTTインフラネット(株)、(株)アイチコーポ

レーション、通建会社6社が、作業性改善、安全・品質向上に繋がる提案品を情報通信エンジニアリング協会の協力で展示しました（写真24・25）。展示コーナーでは計測機器・ツール、VE物品に直接触れて説明を聞くことにより、参加者は安全・

品質への改善取組みの重要性について再認識することができました。

終わりに本安全大会の開催にあたり、ご協力をいただいたNTTグループ・通建各社の皆様に厚く御礼申し上げます。



写真22 アサヒ通信



写真23 日本電設サービス



写真24 展示コーナー



写真25 展示コーナー